

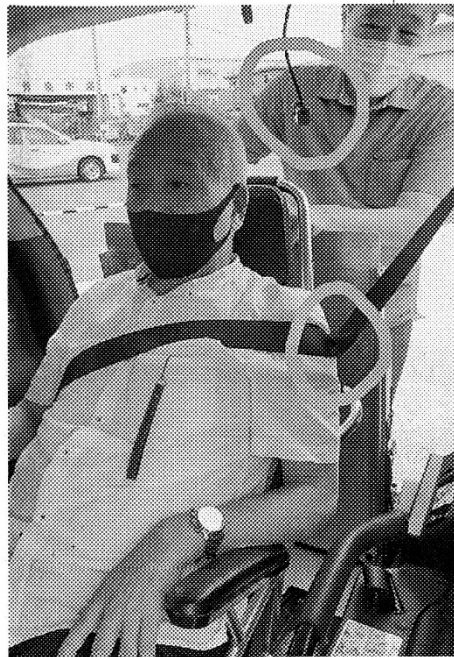
車いす 乗車中の安全探る

かながわ移動ネットが研究会

研究会では、実際に福祉車両に車いすで乗車し、シートベルトの高さを調整するパーツで安全性を確保する方法なども調査した（円内が調整パーツ部）写真提供・かながわ移動ネット

車いす利用者が福祉車両で移動中に事故が起きた際の安全は本当に確保されているのか。

かながわ福祉移動サービスネットワーク（横浜市、清水弘子理事長）は昨年7月から「車いすの車両乗車時の安全にかかる研究会」を設置し安全確保に向けて調査研究を進めている。リハビリ工学士の藤井直人氏、東洋大学教授の高橋良至氏をメンバーに迎え今年2月には神奈川県や自治体の協力を得て県内の福祉有償運送団体に「車いすの安全に関するアンケート」を実施、71団体から回答を得た。



清水理事長は「体形や身体状況によってシートベルトが適正に使用できない」「ヘッドレストがなくなると事故時の安全が担保できない」など長年にわたって現場から課題を指摘されながら改善できない大きな問題をだ。利用者や家族、現場の活動団体、福祉関係者のほか、車いすメーカーや車両メーカーの協力も求めながら、安全な外出に向け良い方向を見出したい」と話している。

研究会は、2019年に富山県で起きた福祉施設の送迎中の死亡事故で担い手のシートベルトなどの扱い

や技術・知識の不足、機器の不足、機器や装置の安全性などが報道性などが報道を通じてクローズアップさーズアップされたことを契機に発足した。

使いやすいシートベルトシートベルトやヘッドレストの構造や安トの構造や安全性の高い車いす固定パーいす固定パーについて手軽で汎用性が軽で汎用性があるものを検討する。 討する。

アンケート結果では、安結果では、安全性に問題があると思いなあると思いがら背が曲がった人など身身体状況によってはシートベルトを不安な状態で装着な状態で装着してしまつ、ヘッドレストの安全重要性に気づいていないに気づいていないといった状況が明らか状況が明らかになった。複雑な装着作業複雑な装着作業を嫌つ、利用者の快適さを者の快適さを優先させる意識もあり、製識もあり、製品には使いやすいや快適さやすさや快適さが求められていることも分かった。

今年度は研究のネットワークの研究のネットワークを広げ、作業療法士、作業療法士、理学療法士、ケアマネージャーケアマネージャーなど福祉の現場ともの現場とものなご、課題を深堀していく。深堀していく。